



「孫文生誕150周年」記念をふりかえって

孫文記念館館長 愛新 翼

(公財)孫中山記念会は、2016年11月26日、27日に、孫文生誕150周年を記念してシンポジウム「孫文とアジア太平洋—ネーションを越えて」を開催致しました。シンポジウムでの講演やご報告、コメントをいただいた諸先生方にお礼を申し上げます。いずれの方々からも、孫文生誕150周年を記念するのにふさわしい、貴重なご高見をいただけたと思います。

今回のシンポジウムでは、ご参加をいただいた諸先生方から、孫文が時代や地域、あるいは民族を越えてどのように捉えられ、共感されてきたのか、というお話を多く伺えたと思います。過去と現在、未来を見るうえで、孫文をどう考えていけばいいのか、皆さま方には今後も引き続きご教示をいただければ幸いです。

2016年は孫文生誕150周年という節目であり、孫文記念館は内外の多くの機関と、生誕150周年記念の事業を行って参

りました。

秋には「翠亨村孫中山故居紀念館特別展」を広東省中山市の孫中山故居紀念館と行い、また朝日新聞社とは「孫文生誕150周年記念孫文フォトアーカイブ展」及び講演会「百年後にスタートした孫文の『夢』と現実」を開催致しました。

孫文の生誕150周年を経て、孫文を通じた内外の繋がりはますます強まっていると思います。

そうした中で当館は、世界の孫文関連記念施設が一堂に会する「孫中山宋慶齡紀念地聯席會議」の2018年度の開催地に名乗りを上げました。開催の際には、皆様にも是非、神戸にお集まりいただければ幸いです。

孫文記念館は今後も、孫文を記念することを通じ、内外との交流にまい進していく所存ですので、皆さま、今後ともご指導、ご支援をいただければ大変幸いです。



孫文生誕150周年記念シンポジウムにて。2016年11月26日、神戸大学統合研究拠点。

目 次

「孫文生誕150周年」記念をふりかえって……………(1)	孫文研究会通信……………(4)
孫文生誕150周年記念国際学術シンポジウム ……(2)	研究室便り(孫中山・宋慶齡紀念地聯席會議など) ……(5)
孫文生誕150周年記念特別講演会 ……(3)	記念館ニュース……………(5)
孫文生誕150周年記念大会に参加して ……(3)	訃報……………(5)
孫文2016特別展……………(4)	移情閣友の会通信……………(6)
2016年 各地の孫文記念事業(17号から続く) ……(4)	編集後記……………(6)

孫文生誕150周年記念国際学術シンポジウム 孫文とアジア太平洋——ネイションを越えて

2016年11月26日（土）、27日（日）、公益財団法人孫中山記念会の主催、孫文研究会・神戸華僑華人研究会の共催になる本シンポジウムは、神戸大学先端融合研究環統合研究拠点にて挙行され、120名に及ぶ参加者を得た。

11月26日は、桑兵中山大学教授、村田雄二郎東京大学教授より、それぞれ「民国元年における孫文の北上と清朝皇室との交流」、「孫文以後の大アジア主義」と題する基調講演がなされ、この2つを巡って、鄭成林華中師範大学教授、廖大偉上海東華大学教授、狭間直樹京都大学名誉教授をパネリストとする総合討論1が行われた。

桑兵氏は、孫文の辛亥革命後の北上における清朝皇室との交流というこれまでほとんど触れられることのなかったテーマを取り上げた。王朝体制から共和国への未曾有の転換期において、革命の敵と味方の双方が、新たな国家建設や秩序創出に共同で取り組んだ史実が明らかにされた。

村田氏は、大アジア主義が日中両国のその後に及ぼした永続的な影響について論じた。山東出兵前後、満洲事変前後、日中戦争前、日中戦争後の4つの時期における大アジア主義の変遷は、アジア主義の支配的な言説とは異なる別種の可能性を示唆している。

2日目の27日は、「制度と公共圏——共和のデザイン」、「孫文思想を継ぐ者」、「ボーダーを越えて」、「参加と動員——いかに革命を組織するか」をそれぞれテーマとする4つの分科会が開かれた。中国、台湾、シンガポール、オーストラリア、イタリア、アメリカからの研究者を含め、16名の中国近代史研究者による学術報告が行われた。

第一分科会では、孫文の思想の持つ広がり、専門家政治という制度的コンテクスト、ガンジー平和論との比較、1930年代の上海土地登記を巡る司法解釈、1940年代の憲政民主論等の場面で確認された。

第二分科会では、資料の面で蒋介石日記の読解が飛躍的に進展した成果を受け、孫文の後継者である蒋介石からみた孫文思想の理解と継承が論じられ、その王道論の功罪について思想的な検討が加えられた。

第三分科会では、シンガポールやマレーシア出身華僑と孫文の交流、オーストラリア華僑と孫文の政治活動、東南アジア華僑による日本製品ボイコット運動と孫文介入の動機、孫文とキリスト教の関係等、アジア太平洋という視点から孫文の遺産が再検討された。

第四分科会では、中華革命党の創設期における孫文批判、1920年代の「反逆者」陳炯明の選挙改革、国共合作期に台頭した労働運動、清末中国人学生の日本留学経験といった事例を通じて、中国革命のそれぞれの段階における参加と動員の過程が探求され、孫文中心の孫文研究を相対化し是正することが目指された。

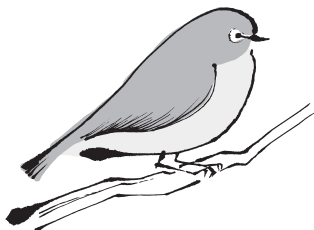
総合討論2では、黄賢強国立シンガポール大学教授、中村哲夫華東師範大学客座教授、山田辰雄慶應義塾大学名誉教授をパネリストとして、4つの分科会で明らかになった知見を中心に、孫文研究の新しい展望について議論が展開された。

蒋介石日記を含めた新資料の読解を通じて、また制度・憲政・参加・動員といった概念を運用することで、孫文研究の新しい地平が開かれることを強く感じさせた国際学術シンポジウムであった。孫文という形象の刷新ならびに転換が、日中におけるネイションの共存、ひいてはアジア太平洋における平和の構築に寄与できることを強く願ってやまない。

（孫文生誕150周年記念国際学術シンポジウム運営委員長：緒形康）



基調講演の様子。



分科会の様子。

孫文生誕150周年記念特別講演会「百年後にスタートした孫文の『夢』と現実—『シルクロード経済帯・21世紀海のシルクロード』計画と日本の選択」
(2016年11月11日、於兵庫県公館)



兵庫県公館会場。

昨年の11月、孫中山記念会は孫文が中国の経済開発を積極的に唱えていた事績に鑑み、2012年より中国が推進しています「一帯一路」構想の歴史的経緯と課題、そして日本がこれにどう対応するべきか、をテーマとして講演会を行いました。

第一部の基調講演では東京大学の高原明生教授、JICA研究所の北野尚宏所長が講演を行いました。

高原氏は中国共産党政権の経済成長政策とその中で矛盾の経緯をお話しされ、2012年からはナショナリズムとしての性格が強い「中国夢」スローガンが出され、その中でユーラシアを重視する「一帯一路」政策が出されたと指摘しました。また中国の近代化は孫文などの試みから依然として続いており、日本は中国の国際主義への歩みをサポートするべきと述べました。

北野氏は日本からの借款援助を受けた経験もふまえ、中国は他国へ援助を拡大していったと述べ、政府レベルの援助のみならず、民間、個人レベルでも中国は海外に経済投資を続け、海外諸国と深い関係を築いていると指摘しました。「一帯一路」構想はアジア諸国に向けて徐々に始動し、国際機関との連携や中国の開発銀行、新国際金融機関の整備を行いつつ、インフラの輸出や文化面の投資を拡大していると述べました。

第二部ではひょうご震災記念21世紀研究機構理事長の五百旗頭真氏がファシリテーターを務め、京都大学の武上真理子准教授、日中産学官交流機構の田中修研究員、神戸大学の関山健客員教授がそれぞれ講演を行いました。

武上氏は孫文が中国の経済開発について論じた『実業計画』は、今の中国の経済政策の裏付けとしての意味を有するのみならず、当時の海外の投資家や、実際に開発を担当する技術者、そして中国人民に向けて開かれたコミュニケーションの場を提供したものであり、この開放性は現代にも向けられていると述べました。

田中氏は足元の中国経済について、次第に第三次産業や

投資に軸を移しつつある中で、輸出入を除けば比較的安定しているとし、また習近平政権は経済の質的転換を志向する「新常态」などのスローガンを打ち出し、中国政府は経済社会に様々な問題が多い事を認識しつつ、穏健、バランスを重視した政策を進める方針であると述べました。

関山氏は「一帯一路」構想において海洋、特に南シナ海が中国にとって非常に重要な要衝になってくるとして、「一帯一路」構想はサプライチェーンや市場の成長といった点で日本にも利益をもたらす可能性がある一方で、「一帯一路」地域における日中間競争の激化や、地域海洋におけるシーレーンの安全確保といった問題が生じる可能性を指摘し、日本は種々の対策を取る必要があると述べました。

討論では、ファシリテーターの五百旗頭氏が、中国には国際社会に対し親和的なアプローチを取る事を期待し、また日中間の更なる友好交流の拡大を目指すべき、と締めくくりました。(この概要は、当日の配布レジュメと、録音に基づきまとめています。) (研究員：村田省一)

孫文生誕150周年記念大会に参加して

中国での「孫文生誕150周年記念大会」は2016年11月10日から18日にかけて、10日間にわたり、北京、南京、上海、広州の4都市を跨いだ大記念行事でした。

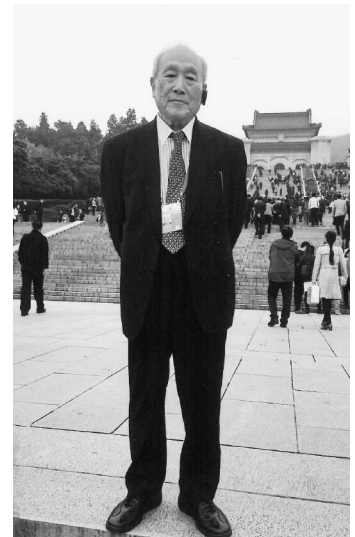
11月10日には北京の人民大会堂に於いて孫文生誕150周年記念大会が盛大に行われ、習近平国家主席が記念講演されました。

孫文は1924年に神戸で「大アジア主義」の講演を行い、天津経由で北京に赴き中国の政治的統一につき尽力していました。しかし、その直後の1925年3月12日、北京に於いて肝臓がんで死去し、当時遺体は北京の碧雲寺に安置され、その後1929年6月に南京の中山陵に埋葬されました。

今回の参加者は孫文の親族及びその末裔28名、孫文の友人の末裔16名、台湾の代表24名、海外華僑代表12名、マカオ、香港の代表9名、その随員、合計117名でした。

北京では碧雲寺、北京中山公園中山堂、南京では孫文の遺体を安置した中山陵、上海では孫中山故居記念館、広州では中山記念堂、そして孫文の生まれ故郷の中山市翠亨村と訪問し、それぞれの記念堂で記念式典が行われ、孫文像に黙祷と献花しました。

今回、孫文生誕150周年記念大会に参加して、改めて孫文が政治的のみならず中国の国民から敬愛され尊敬されていることを実感し、感銘を受けました。(館長：愛新翼)



南京、中山陵にて。

孫文2016特別展「翠亨村孫中山故居紀念館特別展」
「孫文生誕150周年記念孫文フォトアーカイブ展」
『朝日新聞』・『歴史写真アーカイブ』に見る孫文画像
(2016年10月26日～11月30日)

昨年2016年は孫文生誕150周年にあたった事から、当館では孫文月間「孫文2016」において、2つの展示会を挙りました。

1つ目は孫文の故郷である広東省中山市翠亨村にある孫中山故居紀念館の協力を得まして、「偉人の故里・孫中山と翠亨村」というテーマで特別展を共同開催しました。孫中山故居紀念館から提供された画像など資料を通じて、翠亨村の歴史、孫文の両親や孫文の活動を支えた兄弟親戚たち、また孫文の運動に参加したり、孫文の死後に中山陵の設計に参加するなどをした翠亨村出身の協力者、そして今の翠亨村の姿などを紹介致しました。



翠亨村孫中山故居紀念館特別展。

2つ目は戦前の写真を多く所蔵している朝日新聞大阪本社の協力を得まして、「報道写真からみる孫文」を今回紹介致しました。朝日新聞に孫文の肖像が初めて取り上げられたのは1900年。1913年初に孫文が訪日した際は、東京から列島を西進する孫文を同紙は詳細に追っています。その後も孫文の訪日や、晩年の中国での活動、そして1925年の死去に至るまで記事や写真を通じて孫文の動向を報じてきました。

朝日新聞大阪本社の「富士倉庫資料」には、孫文の死後について写した写真が多く残っていました。1928年、中国国民党により北京の天安門上に掲げられた孫文像は、中国の国家観を端的に表した一枚と言われています。南京中山陵で行われた「奉安大典」や、中山陵内部の孫文の遺棺の写真もあり、孫文が死後に中国の「シンボル」となっていく過程をみることが出来ます。展示会ではそういった点も紹介しました。
(研究員：村田省一)



孫文生誕150周年記念孫文フォトアーカイブ展。

2016年 各地の孫文記念事業 (17号から続く)

- ・10月1日～11月6日 熊楠とゆかりの人びと展第28回
「孫文」 田辺 (和歌山)・南方熊楠顕彰館
- ・10月19日～28日 「孫文生誕150周年記念写真展」
長崎歴史文化博物館
- ・10月24日～11月13日 「孫文生誕150周年記念写真展」
横浜・同發新館 (主催：孫文生誕150周年記念行事実行委員会ほか)
- ・10月31日～11月1日 「孫文生誕150周年記念事業」
九州大学 (主催：九州経済フォーラム)
- ・11月1日～12月25日 「孫文と荒尾」展
荒尾 (熊本)・宮崎兄弟資料館
- ・11月9日～18日 「孫文と華僑・華人」展
東京中国文化センター (主催：中国海外交流協会ほか)
- ・11月12日～12月5日 「趣看孫中山及其時代」展
香港歴史博物館
- ・11月11日～2017年2月22日 「高瞻遠矚 孫中山的經濟建設設計画」
香港・孫中山紀念館
- ・11月11日～2017年2月28日 「孫中山的建設理念与広州実践」
広州・孫中山大元帥府紀念館

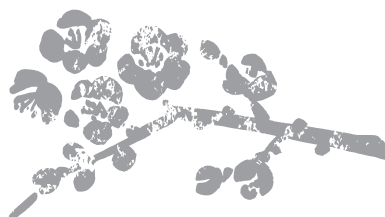
孫文研究会通信

*2016年度 (7～12月) 活動

- ・孫文研究会冬季特別例会：12月11日 (日) 中華会館
特別講演会「孫文写真の日時、場所の認定過程とその時代背景 - 高田家所蔵の写真について」(譚璐美：作家)
- ・国際学術シンポジウム「孫文とアジア太平洋——ネーションを越えて」：
11月26日 (土)、27日 (日) 神戸大学統合研究拠点
主催：孫中山記念会 当会は共催参加。
- ・『孫文研究』第59号発行 (12月28日)

*2016年度 (1～6月) 活動予定

- ・2017年度孫文研究会総会、冬季例会：
1月9日 (月・祝) 中華会館
研究報告「人類学からみた中国の儒教復興：東アジアへの展望」
(秦兆雄：神戸市外国語大学中国学科教授)
- ・『孫文研究』第60号発行 (6月30日予定)
(孫文研究会代表理事：緒形康)



研究室便り

(孫中山・宋慶齡紀念地聯席會議など)

孫文生誕150周年を記念して、上海中山学社などの主催で、「孫中山的理想と中国夢」と題する国際シンポジウムが、2016年11月9～10日、上海・青松城大酒店にて開催された。中国のほか、日本、アメリカ、オーストラリア、台湾などの国と地域から93名の出席者が登録され、会議用の論文集には54本の論文が収録された。9日の開会式に続き、熊月之（上海）、張憲文（南京）、王曉秋（北京）、Dong C Price（米国）、黄明同（広州）の諸氏が登壇され、主題報告を行った。シンポジウムは2つの分科会、8つのセッション、1セッションにつき5～6人の報告で実施された。2日目の10日午後、外国・外地の参加者は浦東新区の中国国際金融中心で展示された「孫中山的理想と奮闘」展示会を参観し、充実した内容であった。当館からは村田省一研究員と私が出席した。村田研究員の報告タイトルは「孫中山晩年における日本の孫文観」、私の報告タイトルは「孫中山と神戸の交流秘話」であった。

第28回孫中山・宋慶齡紀念地聯席會議は2016年11月23～24日、中国広東省中山市で開催された。今回の聯席會議は孫文生誕150周年にあたり、孫文の故郷で行われた。會議には中国をはじめ世界各地52の孫文、宋慶齡関連施設・団体の代表約90名が出席された。また孫氏の親族11名が参列され、故郷での会合を実現した。會議の前夜に開催された予備會議では、新たに5つの施設・団体の参加が認められた。初日の本會議は翠亨孫中山故居紀念館のホールで開催され、中山市政治協商會議主席・邱樹宏氏の講演、同紀念館元館長・蕭潤君氏の聯席會議に関する回顧講演が行われた。2日目の大会発言では、当館が2018年に開催される第30回聯席會議に立候補する事を私から正式に説明した。なお、2017年の第29回聯席會議は米国ロサンゼルスで孫中山中心基金会の主催で開催することが決まった。日本からは兵庫県教育委員会、長崎県文化振興課の関係者も出席され、宮崎兄弟資料館、孫文と梅屋庄吉ミュージアムの事業を内外に広くアピールされ、本館とも有益な交流が図られた。

(主任研究員：蔣海波)



第28回孫中山・宋慶齡紀念地聯席會議。

記念館ニュース〈2016年7月～12月〉

- ・7月2日・10日、中国CCTVが当館を取材。
- ・7月22日、上海市文史資料館一行が来館。
- ・7月26日、中国新聞社（中国）が当館を取材。
- ・8月19日、日中TVが当館を取材。
- ・8月21日・10月27日、NHKが当館を取材。
- ・9月30日、江蘇省広電総局当館が当館を取材。
- ・10月22日、上海市政治協商會議・中山学社一行が来館。
当館の安井三吉名誉館長が講演「孫文在神戸の足跡」を行いました。



上海市政協・中山学社一行との会合。

- ・11月2日、新華社が当館を取材。
- ・11月4日、神戸新聞が当館を取材。
- ・11月5日、中山市孫中山故居紀念館一行が来館。
- ・11月11日、孫文生誕150周年記念特別講演会。
- ・11月11日、広東広播電視台が当館を取材。
- ・11月13日、荒尾市副市長が来館。
- ・11月19日、高校生新聞一行が当館を取材。
- ・11月26日～27日、孫文生誕150周年記念国際学術シンポジウム
- ・12月9日、兵庫県公社等経営懇話会第2回例会が当館で開催。
当館の愛新館長が講演「孫文が中国の近代化に果たした役割」を行いました。

訃 報

- ・2016年6月16日、画家の長尾和先生が逝去されました。長尾先生は長年にわたり中国と交流をされ、2014年には中国で描かれた絵画を当館に寄贈していただき、同年に当館は長尾先生の絵画展「中国を旅する」を開催しました。
- ・2016年7月11日、孫中山記念会元事務局長の大西康雄氏が逝去されました。大西氏は1985年から1996年まで同会事務局長、1996年から2005年まで同会評議員を歴任されました。
- ・2016年8月30日、神戸大学経済学部教授の加藤弘之先生が逝去されました。加藤先生は2009年より孫中山記念会の理事をご担当され、2012年に同会が公益財団法人に移行してからは、評議員としてご助力をいただきました。孫文記念館一同、心よりお悔やみ申し上げます。

移情閣友の会通信

* 行事報告

・ 移情閣まつり2016&交流会…10月10日(月・祝)

移情閣・庭園

公開文化講座、台湾国父記念館交流の旅報告会、お箏演奏、コーラス、ウクレレ演奏、詩吟、高校生による中国語の歌、漢詩朗唱と二胡演奏のコラボ、二胡体験コーナー、ミニバザーなどを実施。公開文化講座では、愛新翼館長による「原典で読む中国成語故事」、中国古代史同好会吉村晴夫代表による「楊貴妃が愛した日本人」の講演。2階講義室にて囲碁同好会と中華同文学校校友会が交流戦。総勢188名の参加があり、地域との交流を深めることができました。



(左) 挨拶する林会長。(右) 高校生の合唱。

・ 孫文生誕150周年記念 孫文フィールドワーク

11月12日(土) 兵庫県立のじぎく会館・孫文ゆかりの地4か所

まずは、記念講演で、西村成雄孫文記念館副館長による「孫文生誕150周年を記念して～孫文の神戸、神戸の孫文～」と題した講演を聞き、孫文に対する理解を深めたくうえで、孫文ゆかりの地4か所を巡るフィールドワークへ。スタートは諏訪山公園「孫文潜居の地」銘板設置場所、次に兵庫県庁一号館外壁にある「孫中山先生大アジア主義講演の地」銘板、続いて中華同文学校外壁「孫文先生来訪の地」、最後に孫文の銅像のある大倉山公園を訪ねました。総勢50数名の参加があり、安井三吉名誉館長ならではの明快な解説で歴史背景などを学べたワークは大好評でした。終了後、天安閣にて懇親会を開催、友の会行事初参加の方も含め、計23名が親睦を深めました。

編集後記

昨2016年は孫文生誕150周年にあたり、中国各地、そして日本でも各地で記念行事が行われました。孫文の死去から90年以上が経った今なお、孫文は日中交流において重要なシンボルでありつづけています。当館でも記念行事としまして特別展示会、講演会、そして学術シンポジウムを開催致しました。ご来場をいただきました方々、お世話になりました先生方にお礼を申し上げます。

なお、今号は孫文生誕150周年記念諸行事の業務のため、発行が例年より遅れてしまいました。この場をお借りしてお詫び申し上げます。(M.S)



(左) 西村先生の講演。(右) 諏訪山公園金星台の銘板にて。

・ いきがいSNS&移情閣友の会合同フェスティバル 12月4日(日) 神戸生田文化会館

移情閣中国古代史代表吉村晴夫さんの著書「秘色の椀」を脚本化した朗読劇「楊貴妃が愛した日本人」の出演はいきがいSNS。二胡同好会は序曲「睡蓮」を演奏。鳴尾牧子先生は楊貴妃に思いを馳せて作曲した「晚鐘」を本邦初披露。最後「費馬」の合奏は愉快でした。続けてのコーラスは、張文乃先生の唐詩朗唱合わせての合唱に魅了されました。160名が参加。孫文記念館と移情閣友の会のPRが功を奏して、2名の新規入会者を得ることができました。感謝です。



(左) コーラスの合唱。(右) 二胡の演奏。

・ 移情閣だより114号 2017年1月発行

<今後の予定>

・ 2017新春のつどい 南京町春節祭見学…2017年1月29日(日) 11:30-14:30

会場: 東栄酒家&南京町 参加費: 3,000円

・ 移情閣友の会企画運営委員会屋外例会…2月11日(土) 11:30-15:00

会場: 神出小東野村まつり呉錦堂顕彰碑など見学

・ 孫文学ミニ検定(予定)…3月12日(日) 孫文記念館2階講義室

(移情閣友の会企画運営委員長: 後藤みなみ)

孫文記念館館報 『孫文』
第18号 (2017年2月24日発行)
発行者 公益財団法人 孫中山記念会
〒655-0047 兵庫県神戸市垂水区東舞子町2051
Tel : 078-783-7172 Fax : 078-785-3440
e-mail : sunwen20@aiores.ocn.ne.jp
URL : http://sonbun.or.jp
(題字は孫文記念館所蔵の孫文自筆の書より。ただしオリジナルは縦書き)

孫文記念館館報『孫文』第 18 号訂正

5 頁 訃報 上から 2 行目

誤 2014 年→正 2013 年